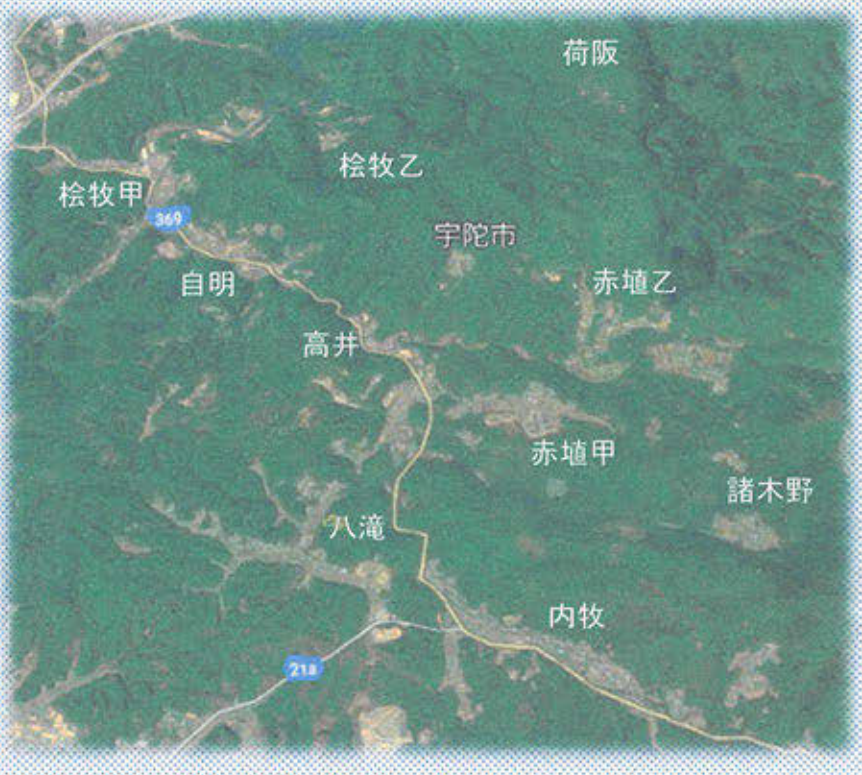
内牧地域の名所旧跡

（神社・仏閣編）



内牧地域まちづくり協議会

（掲載順）

桧牧甲 ⇒ 桧牧乙 ⇒ 荷　阪 ⇒ 自　明 ⇒

高　井 ⇒ 赤埴乙 ⇒ 赤埴甲 ⇒ 諸木野 ⇒

八　滝 ⇒ 内　牧

（桧牧甲）

神社・仏閣

桧牧（甲）

伊勢本街道西の入り口にあたる地域最大の在所

地名の由来は、古代の国営牧場「肥伊牧（ひいのまき）」にちなむという。当時の国営牧場では、馬を飼う。

御井神社 みいじんじゃ

神明造りの本殿に御井神・天照大神・天児屋根命・水分神を祀る。御井神は、木俣神の別名である。

平安時代の書物、『延喜式』神名帳にある「御井神社」は、当社にあてられている。

近世には、食井明神、気比明神とも称した。気比神とは、伊奢沙和気神のことで、一名を御食津神ともいい、食物を主宰する神である。

寛永元年（1624）の石灯籠には「四社大明神」とある。

文政５年（1822）に当社境内にあった観音寺の住職が書いた『神廟祭祀定式』によると、「古来、高星・桧牧・自明三郷の民が祭祀」とある。

氏子は高星・下戸・桧牧・自明に及び、宵宮には、高星から当社へ御輿の渡りがある。

神社裏山に広がる「ツルマンリョウ群落」は奈良県指定文化財（天然記念物）。

十二社神社 （熊野神社・熊野権現） じゅうにしゃじんじゃ

境内には、３棟の石造神殿（石神殿）が並んでいる。

中殿には文中４年（1375）銘、右殿には明和４年（1767）銘がある。左殿には正応３年（1290）銘があるが、承応２年（1653）の再興である。

中殿の年号「文中」は南北朝時代の南朝の年号。中殿の石神殿本体は、南北朝時代の作例として貴重で、石祠（石神殿）のなかでも古例となる。国の重要美術品。

大日寺 だいにちじ

古義真言宗。大日如来坐像を本尊とする。

HINOMAKI(KOU)

真光寺 しんこうじ

真木原山と号する浄土真宗本願寺派の寺院で、阿弥陀如来像を本尊とする。

寺伝によれば、薬師寺と称する寺であったが、永禄８年（1565）に浄土真宗に改宗、寛文 13 年（1673）に真光寺の公称が許可、元文５年（1740）に現在の場所に移転したという。

宇陀郡の寺院を調査した『諸宗本末寺院明細帳』（明治５年／ 1872）が伝えられている。

田楽寺 でんがくじ

古義真言宗。薬師如来立像を本尊とし、堂内には、多くの仏像を安置する。

真言宗の薬師寺、御井神社の神宮寺である観音寺の仏像がここに集められているのであろう。

この他に地蔵堂、正念寺、泉堂、芝堂寺、堂楽寺、墓寺などがあったという。

観音寺 （廃寺） かんのんじ

御井神社境内にあり、如意輪観音立像を本尊としていた。本尊は、今、田楽寺に移されている。

宇陀西国三十三所２０番札所。御詠歌は「檜牧に　駒のいななく　音すれば　大慈大慈の　実りとくらん」。

神社・仏閣

桧牧（乙）

子供が楽しめる
公園が有る地区

地名の由来は、古代の国営牧場
「肥伊牧（ひいのまき）」にちなむという。
当時の国営牧場では、馬を飼う。

永勝寺 えいしょうじ

古くは真言宗。元禄５年（1692）に浄土真宗本願寺派となったという。阿弥陀如来立像を本尊とする。

市岐島神社 いちきしまじんじゃ

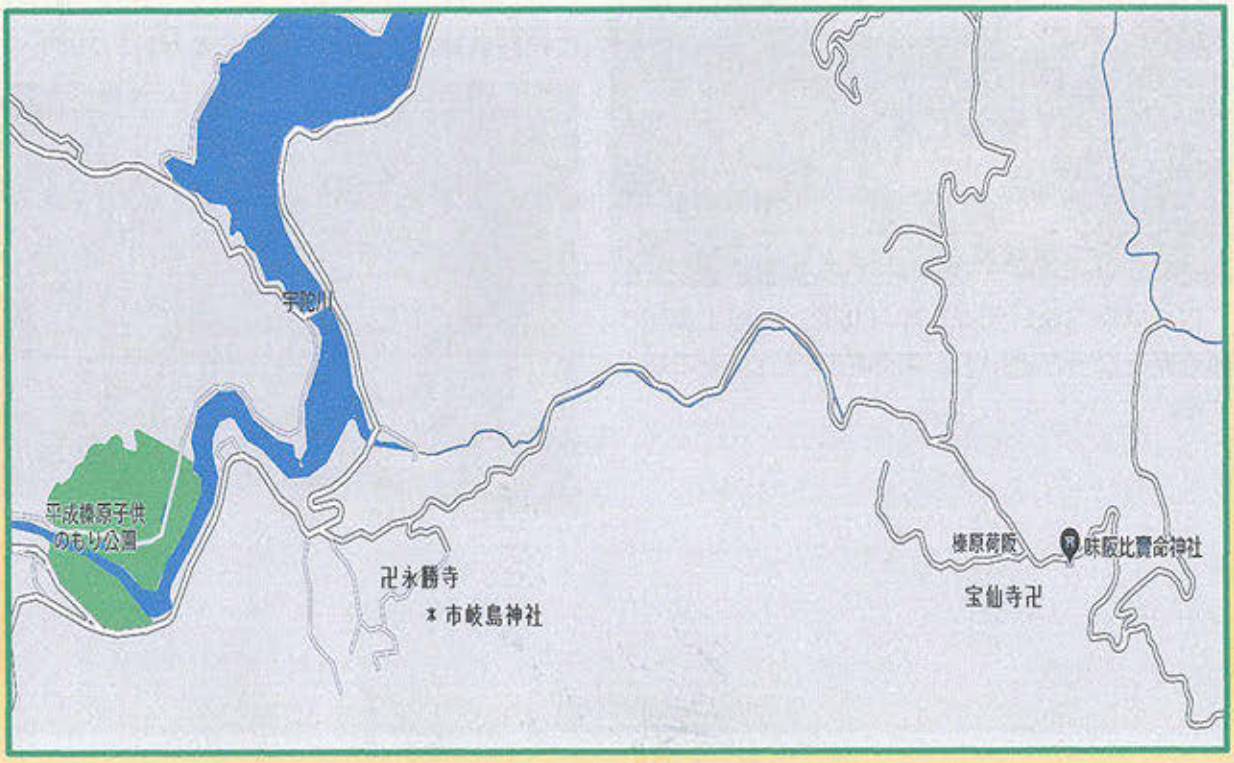
春日造の本殿に市岐島姫命を祀る。

例祭当日は、神霊は神輿で御井神社へ遷幸する。玉垣内の石灯籠には、寛文５年（1665）の銘がある。

江戸時代には、弁財天社であったが、明治初年に市岐島神社に改め、神仏分離が行われている。

HINOMAKI(OTSU)

（桧牧乙・荷阪）



神社・仏閣

荷阪

室生寺へ通じる由緒ある地区

古くは「ミソサカ」とする記録がある。味坂比売命神社の名によるという。古代地名のひとつ「浪坂（なみさか）」に由来するとの説もある。

NISAKA

味坂比売命神社 みさかひめのみことじんじゃ

「荷阪」は、もともと「ミノサカ」と称した。この神社の祭神は、味坂比売命（みのさかひめのみこと）。平安時代の書物、『延喜式』神名帳にある「味坂比売命神社」は、当社にあてられている。

日本最古の医学書『大同類聚方（だいどうるいじゅほう）』（大同３年／808）に書かれている「宇多之味坂薬」は、この神社の神方（しんぽう・薬）であったと考えられている。

例祭には、この神社より室生龍穴神社に渡御があったという。本殿前の宝永５年（1708）の石灯籠にも「竜王大明神」と刻まれ、室生龍穴神社との関連をうかがわせる。

宝仙寺 ほうせんじ

創建は不詳。浄土真宗で本尊は阿弥陀如来坐像。

『宇陀郡史料』（大正６年／ 1917）には、「元真言宗に属し、字高ヶ峯に在りしと伝ふ。僧清玄の時に至り、真宗に帰依し、のち寛文 12 年（1672）に宝仙寺と公称す。本堂は高ヶ峯に在りしを移せるも明治年間に破壊し、現在の堂宇を再建せり。」とある。

荷阪村

『慶長郷帳』に「箕坂村」、『元和郷帳』に「見の坂村」、『寛永郷帳』に「見野坂村」と記載されている。

『慶長郷帳』の村高78.31石。元禄検地により、村高 89.425 石。

延享3年（1746）の『荷坂村明細帳』によれば、村民の農間稼（のうかんかせぎ・耕作の合間に行う稼ぎ）は、「耕作間男女共炭割木薪仕候」とあり、林産加工に重点がおかれていた。

（自明）

御井神社
369
369
悟真寺
白山神社＊
山根製材
伊勢本街道
不動堂＊
高井交番
櫟原高井郵便局
卍全真寺
櫟原高井
内牧グラ

神社・仏閣

自明

四季折々の風景変化に富む静寂な山あいの里

自明（じみょう）の由来は、悟真寺の山号「自明山」にちなむという。

悟真寺 ごしんじ

自明山と号する曹洞宗の寺院で、聖観世音菩薩立像を本尊とする。

寺伝によれば、宝徳３年（1451）に道喜阿轍が創建、兵乱で堂宇を焼失し、文禄４年（1595）に加須屋内膳正が再興したという。

文政年中（1818～30）の寺地付近の山崩れにより、諸堂の多くは土中に埋没し、寺地も半減した。寺地近くに大門・法夕・法雲寺などの小字が残る。

文禄４年の加須屋内膳正寄進状、慶長８年（1603）の福島掃部頭（高晴）寄進状が伝えられている。白鳳時代の銅造誕生釈迦仏立像（国の重要文化財）は、現在、奈良国立博物館へ寄託されている。

白山神社 はくさんじんじゃ

天御中主神（あめのみなかぬしのかみ）、白山比売神を祭神とする。

本殿内の前机は、寛正２年（1461）の初生寺の棟札を転用したものであり、本殿内に「白山妙理権現」と記した天正９年（1581）の棟札がある。

歯の神として信仰され、箸を供えたという。

この他、当地区には、白山神社、春日神社（元禄５年／1692の石神殿）が祀られている。

白山神社

春日神社

全真寺 ぜんしんじ

普照山と号する浄土真宗本願寺派の寺院で、阿弥陀如来立像を本尊とする。元は真言宗であったが、浄土真宗に改宗。

弘法大師爪書き不動尊

不動堂 ふどうどう

不動明王を本尊とし、「大師爪書の不動尊（不動磨崖仏）」と並んで信仰を集めている。

かつては、伊勢参詣者への接待所・茶所（ちゃじょ）であった。鑵子（茶釜）には、「宇陀郡自明村 伊勢山上茶所」、「施主 初瀬川上町福智屋源兵衛 郡山魚町海老屋佐助 平井村美燈路忠治口」とあり、今も大切に保存されている。

現在は廃寺となっているが、法霊寺、龍門寺、阿片庵があったという。

神社・仏閣

高井

伊勢本街道宿場や古民家が点在する地区

地名の由来は、「高いところにある井戸（高い井戸）」にちなむという。この井戸とは、奈良県指定文化財（天然記念物）の「高井の千本杉」にある井戸。

TAKAI

真楽寺 しんらくじ

彗日山と号する浄土真宗本願寺派の寺院で、阿弥陀如来立像を本尊としている。

創建は明らかでないが、貞享年間（1684～1688）まで高水山弥勒院という真言宗の寺院であったが、元禄７年（1694）に浄土真宗に改宗し、現在に至っている。

室生山八十八ヵ所霊場第２３番札所に高井札所がある。

伊豆神社 いずじんじゃ

伊豆大神、大山祇命（おおやまつみのみこと）（山の神）を祭神とし、元禄３年（1690）銘などの棟札が残っている。

明治４１年（1908）に椿尾垣内（通称 大将軍に鎮座）の大山祇神社を合祀している。神宮寺は、高水山弥勒院（弥勒堂）。社務所には、弥勒菩薩像、毘沙門天像、不動明王像を安置する。

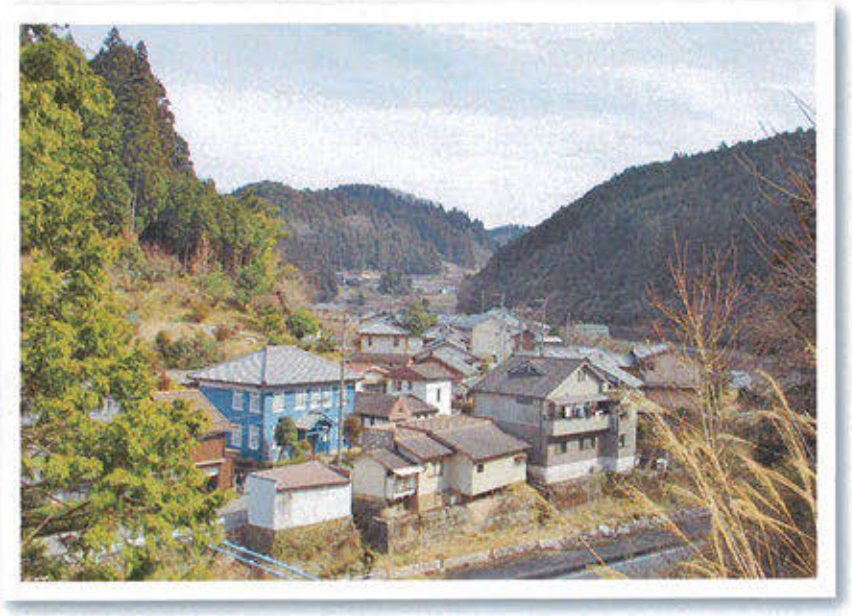
県指定天然記念物 高井の千本杉

昭和56年3月17日指定

伊勢に通ずる旧伊勢本街道沿いにあり、約１ｍ四方の古い井戸（現在はから井戸）の周囲に数本の蜜植された杉が成長するにつれて、株元がゆ着した連理材形式のものである。全体として目通り約２５ｍ、樹高約３０ｍ枝張りは東西南北とも２２ｍに達する巨大なもので、遠望すれば一団の森のようにのびている。南東側近くにある古井戸の水を飲用すると難病にも効果があると伝えられ、この樹は多くの人々から信仰されている。

井戸杉としては、県下では最大最古のもので、樹幹の複雑なゆ着は学術上貴重なものである。

TAKAI



（高井・赤埴乙）

神社・仏閣

赤埴（乙）

室生寺の南門として佛隆寺があり、千年桜・彼岸花で有名

地名の由来は、「赤い土（埴）」にちなみ、『万葉集』にも「倭の宇陀の真赤土（まはに）」とある。

「佛隆寺のサクラの巨樹」
（奈良県指定文化財・天然記念物）

佛隆寺 ぶつりゅうじ

摩尼山と号し、真言宗室生寺派に属し、「室生寺の南門」ともいわれている。

寺伝によれば、嘉祥３年(850)に空海(弘法大師)の高弟堅恵が県興継を檀主として建立したと伝え、それ以前に興福寺別当の修円が住んだともいう。

本堂には本尊の十一面観音立像のほか、不動明王像、空海像、堅恵像などを安置し、護摩堂には不動明王像、辻堂には鎌倉末期の地蔵石仏を祀る。

本堂裏には、修円の墓と伝える元徳２年（1330）銘の十三重層塔、白岩神社横には、貞観９年（867）に入定した堅恵の墓と伝える宝形造りの石室がある。（国の重要文化財）

また、空海が唐から持帰ったという茶臼、『佛隆寺霊宝茶臼之記』、『佛隆寺縁起』、貞観５年（863）に堅恵が鋳造したとう梵鐘の断片などが伝えられている。

石段横には、県内最古最大という「佛隆寺のサクラの巨樹」（奈良県指定文化財・天然記念物）が根を下ろしている。石段は、室生寺奥の院、談山神社とともに大和三名段の一つに数えられている。

宇陀西国三十三所第２１番札所。御詠歌は「いつとなく、心につもる　赤埴を　佛隆寺にて、癒ゆる罪とが」。

室生山八十八ヵ所霊場第２０番札所。

佛隆寺の「金の茶臼」伝説

佛隆寺には、空海が唐から持帰ったという茶臼がある。この茶臼の側面には、麒麟（中国の想像上の動物）が彫られており、破損した部分は、金で接いで補修されている。

寛文年間（1661～ 1673）に織田家宇陀松山藩3代藩主織田長頼は、茶会を催すにあたって佛隆寺の茶臼を借り受けた。しかし、茶会が終わってもこの茶臼は、長頼のもとにおかれ、寺が返却を催促しても長頼は、惜しんで返さなかった。

そのうち、毎夜、藩邸内に獣が出てきて鳴き騒ぎ、暴れ回り、物を壊すということが何日も起るようになった。その犯人は、よく見ると茶臼に彫られた麒麟であった。この騒動、茶臼の麒麟が佛隆寺に帰りたいと暴れまわったともいわれている。

長頼は、立腹して（気味悪がって）、この茶臼を庭石に投げつけたところ、茶臼は割れてしまい、ようやく茶臼は佛隆寺に戻されることとなった。

金で修理された石臼の破損個所は、この時の破損によるものといわれており、以来、「金の茶臼」と呼ばれるようになった。

AKABANE(OTU)

白岩神社 しらいわじんじゃ

光明ヶ岳の西南麓に鎮座し、神明造の本殿には、須勢理姫命を祀る。西隣の佛隆寺の鎮守として創祀されたという。

当地の豪族（有力武士）、赤埴氏の氏神として崇敬されてきた。現在は、赤埴甲・赤埴乙・諸木野の３地区の氏神として祭礼が行われている。

元禄４年（1691）の石灯籠などには、「奉寄進善如竜王」と刻まれていることから、当初、水神（善如竜王）を祀っていたものが、明治時代の神仏分離によって、須勢理姫命を祭神とするようになったと考えられている。

大和茶発祥の地

空海が唐から帰国する際に茶臼と茶の種子を持ち帰り、佛隆寺開祖の堅恵に山内に蒔かせたという。これが「大和茶発祥の地」とされる由縁である。

昭和50年に奈良県で開催された第29回全国茶業祭で、奈良県産のお茶が農林大臣賞を初め、多数の受賞を得ることとなった。この全国茶業祭開催を機に、大和茶発祥の由来と偉業を顕彰するために「大和茶発祥伝承地」と記した顕彰碑を建立した。

廣船寺 こうせんじ

真宗本願寺派。

詳細な寺歴は明らかではないが、明治時代の『寺院明細帳』には、「寛文 12 年（1672）12 月本山ヨリ廣船寺の号を賜」とある。

神社・仏閣

赤埴（甲）

伊勢本街道沿いに広がる棚田の里

地名の由来は、「赤い土（埴）」にちなみ、『万葉集』にも「倭の宇陀の真赤土（まはに）」とある。

千体仏 せんたいぶつ

１６世紀前半に赤埴家の養子となった越中守安正が生地の美濃から仏像を背負ってきたのが始まりという。堂内には、地蔵菩薩立像、多くの小地蔵菩薩立像などが祀られている。

子どもを授かりたい人は、願をかけて小地蔵菩薩立像一体を持ち帰る。願いがかなうと、そのお礼にと新たに一体（人形）を準備し、持ち帰った小地蔵菩薩立像とともに二体を一緒に堂内に納めることになっている。「子授けに御利益」ありと今も信仰が篤い。

当地区には、皇大神宮、金毘羅宮が鎮座する。

万葉歌碑

伊勢街道周辺観光案内図

享保７年銘（1722）の道標「右いせみち」

AKABANE(KOU)

（赤埴甲）

伊豆神社
榛原高井
内牧グラウンド
369
高井
千体仏
高井の千本杉

（諸木野）

高井の千本杉
榛原赤埴
369
卍大乗寺
諸木野弥三郎の墓＊
＊北向地蔵
諸木野の桜
愛宕神社

神社・仏閣

諸木野

500m余の高所にあり、
伊勢本街道の要駅

地名の由来は、「諸(桎)の木」を
伐採して開墾した所にちなむという。
室町時代には、「諸木野」という地名が成立。

MOROKINO

愛宕神社 あたごじんじゃ

諸木野氏の城であった諸木野城跡にあり、火産霊神（火の神）を祭神とする。

延宝年間（1673～1681）に大火により、諸木野集落の多くが焼失したので、火伏の神として有名な京都の愛宕神社の神を勧請したのが始まりという。

北向地蔵
北向に立っており
お参りする方の
悪い厄を払って
くれるお地蔵さん
と言われている

大乗寺 だいじょうじ

浄土真宗本願寺派の寺院で、阿弥陀如来立像を本尊とする。

寺伝によると、延元年間（1336～1340）に伊勢国司・北畠氏によって創建されたという。真言宗豊山派であったが、のちに浄土真宗に改宗し、享保４年（1719）に現在の寺名となる。

北畠氏配下の諸木野氏の菩提寺とも伝えられ、近くの墓地には、弓の名手であった「諸木野弥三郎」の墓といわれている宝篋印塔がある。

諸木野弥三郎の墓

逆さ桜の「うしつなぎの桜」
田に水を入れると
逆さ桜が映る

（八滝）

神社・仏閣

八滝

清涼な空気溢れる自然豊かな地区

地名の由来は、谷水の急流地で、流水がたぎり、滝や激流となる川筋にちなむという。

YATAKI

五社神社 ごしゃじんじゃ

天照皇大神、天児屋根命、手力男命、天太玉命、品陀別命（応神天皇）を祭神とする。

神社の創祀は明らかでないが棟札から文明６年（1474）には、社殿が造立されていたことがわかる。一対の狛犬（万延元年／ 1860）は、石工「丹波佐吉」の作。

境内社に菅原道真を祭神とする天満神社がある。境内にあった観音堂は、龍泉寺に移築。

龍泉寺 りゅうせんじ

松本山と号する浄土真宗興正寺派の寺院で、阿弥陀如来立像を本尊としている。

寺歴の詳細は、明らかでないが、正徳２年（1712）に勧修寺宮より権律師（ごんりっし）の令旨（りょうじ）を受けたという。

本堂右側の観音堂は、五社神社境内にあった観音堂（観音寺）を明治１０年（1877）に移築し、十一面観音立像を本尊とする。

観音寺（廃寺） かんのんじ

五社神社社務所にかつては、観音寺があり、十一面観音立像を本尊とした。

宇陀西国三十三所第１８番札所。御詠歌は「八滝より、落ち来る水に　身を清め　花の台（うてな）に、のるぞ嬉しき」。

第１８番札所の観音寺から第１９番札所の初生寺へは、「初生道」と呼ばれる巡礼道がある。

文祢麻呂（ふみのねまろ）墓と出土品

天保２年（1831）、八滝の山中で、偶然、墓誌（ぼし）が入った銅箱、金銅壺などが発見された。金銅壺の中には、火葬骨が入ったガラス製の壷（骨蔵器）が納められていた。墓誌に「壬申年将軍左衛士府督正四位上文祢麻呂忌寸慶雲四年歳次丁未九月廿一日卒」と刻まれていたことから、ここが慶雲４年（707）に亡くなった文祢麻呂の墳墓であることがわかった。

その後、出土品は、地元の龍泉寺に保管されていたが、堺県令税所篤の申し出によって、明治１１年（1878）に帝室博物館（現在の東京国立博物館）に収蔵された。出土品は、昭和２７年（1952）に国宝に指定。

一方、出土品を保管してきた龍泉寺には、明治１３年（1880）に出土品発見の経緯と経過を記した墓碑（石碑）が建てられた。

文祢麻呂は、渡来系氏族・西文（かわちのふみ）氏出身の官人（役人）。壬申の乱（天武元年／672）では、舎人（とねり・皇族の護衛などを担当する役人）として大海人（おおあま）皇子（のちの天武天皇）に従い、吉野から東国へと赴き、活躍した。

神社・仏閣

内牧

山腹に広がる数百本のさくらと三奇石の里

地名の由来は、古代の国営牧場「肥伊牧（ひいのまき）」の上流にある牧場（内牧）にちなむという。当時の国営牧場では、馬を飼う。

伊豆神社 いずじんじゃ

字コウノ口に鎮座し、彦火火出見命（山幸彦）を祭神としている。

社伝によると、長和３年（972）に伊豆国の走湯権現（伊豆山権現）を勧請し、文治元年（1185）に現在の祭神となったという。

摂社に八幡神社、嶽神社がある。石灯籠には、寛文２年（1662）、元禄４年（1692）の銘が刻まれている。

三島神社 みしまじんじゃ

祭神は伊弉諾命。創祀は明らかでないが、棟札には崇神天皇６５年の創祀と記す。元禄３年（1690）銘などの棟札が残っている。

神宮寺は、浄土真宗の滝谷寺（現在は廃寺）といわれており、社務所は、滝谷寺から移築されたものと伝える。

嶽神社 だけじんじゃ

祭神は高霊神（水の神）。干ばつのとき、ここで雨乞いを行ったという。このとき、拝殿で大トンドを行い、その火で松明をつけ、下山したという。

神社周辺は、区民の森として整備されている。

常徳寺 じょうとくじ

常徳寺は浄土真宗本願寺派の寺院。江戸初期の火災により記録は焼失し、正確な創立は不明であるが、蓮如上人の頃に吉野飯貝本善寺の道場として成立したと伝えられている。1845 年に再建されたが、傷みが激しくなり、2001 年に門信徒の懇念により再度本堂を新築し、現在に至る。内陣にはご本尊阿弥陀如来（1673）を安置。

また、火災により焼失した内牧円覚寺（融通念佛宗）のご本尊阿弥陀三尊も合置している。

三社大明神 さんしゃだいみょうじん

朝日大明神
大滝大明神
草刈大明神

滝谷不動尊 たきだにふどうそん

愛宕神社 あたごじんじゃ

大内六地蔵

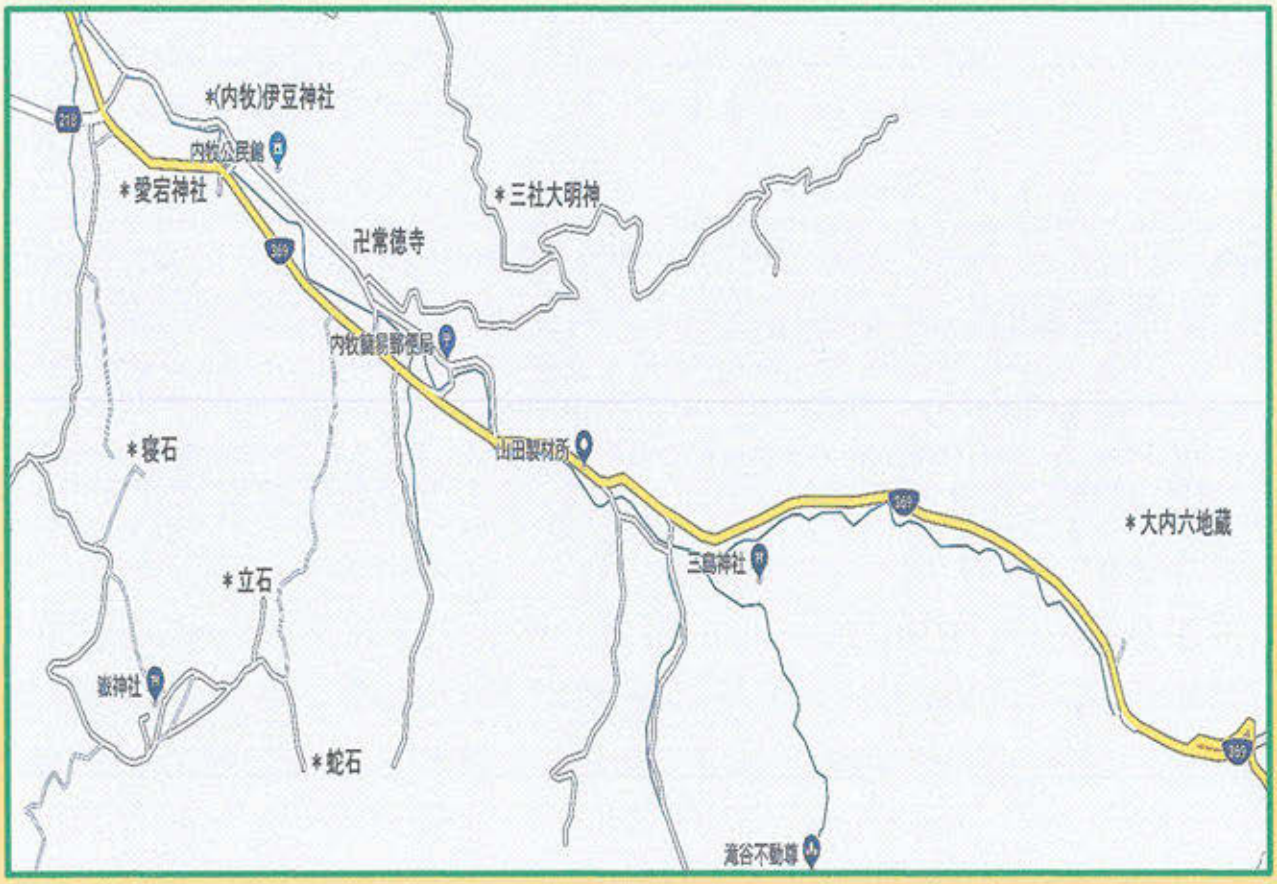
獄の立石
蛇はみの蛇石
こけて鼻うつ唐戸の寝石

立石

蛇石

寝石

（内牧）


*(内牧)伊豆神社
内牧公民館
*愛宕神社
*三社大明神
卍常徳寺
内牧簡易郵便局
山田製材所
*寝石
*大内六地蔵
三島神社
*立石
嶽神社
*蛇石
滝谷不動尊

平成 30 年 4 月　発行
(2018 年)